

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

| | | | |
|----------|-------------------------------|---------------|-------|
| 機関名 | 東京海洋大学 | 整理番号 | 1907 |
| プログラム名称 | 海洋産業 AI プロフェッショナル育成卓越大学院プログラム | | |
| プログラム責任者 | 竹縄 知之 | プログラムコーディネーター | 庄司 るり |

(評価決定後公表)

| |
|---|
| <p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。 <input type="checkbox"/> A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。 <input type="checkbox"/> B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。 <input checked="" type="checkbox"/> C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。 <input type="checkbox"/> D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。 <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革の実現については、海洋 AI を推進する卓越プログラムは中核として位置づけられており、AI 教育プログラムの策定や学長裁量枠による AI の専門領域の教員採用、連携企業コンソーシアムの拡大等の体制が整えられている。しかし、学生定員（博士前期課程 10 名、後期課程 15 名）の充足率は 6～8 割であり、さらに中途退学者数の多さに鑑みれば、大学院教育全体への波及には未だ遠く、海洋科学技術に関わる環境、資源、エネルギーの 3 領域における広い視野を持つ人材養成のための制度体制の強化と実行が求められる。</p> <p>修了生の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長・活躍の実現性及び高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、企業によるインターンシップ学生への評価も高く、また連携先機関からの非常勤講師としての参画等、好循環が評価できる。学内教員には海洋×AI 研修・資格認定制度（延べ 96 名の認定）等を行うことにより、組織的な指導体制を強化している。海洋 AI における卓越した学生の成長実現には、例えば東工大卓越大学院プログラムなどとのさらなる連携が期待される。5 年一貫教育の実現のためには、「社会人学生スキーム」やマルチメンター制の構築、キャリアパス支援を目指した企業フォーラム等を早急に進める必要がある。</p> <p>優秀な学生の獲得については、広報等により情報工学系と生物系の学生数のバランスが整ってきていることは評価されるものの、競争倍率の低さやプログラム生への経済的支援への理解が低いことが懸念される。中途退学が多い現状下で、卓越性を示す成果指標には到達できていない。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムの実現については、学生の経済的支援を含めた教育環境の整備、留学生の獲得拡大や高い国際性を目指した教育研究の強化等、早急な実行が求められる。</p> |
|---|

事業の継続・発展については、海洋 AI 開発評価センターを中心に、学長の下にマネジメント体制が整えられ、大学院教育推進機構の整備や学内外資金の活用が進んでいることは評価できる。しかし、海洋 AI コンソーシアムへの参加団体が増えつつあるものの、経費を含めた全ての PDCA サイクルのフィードバックとともに、実質的な資金計画の見直しも必要と思われる。